

自社の使用する電力量を削減するとともに、
事業を通じた環境負荷低減・
生物多様性保全活動を推進し、
持続可能な社会の構築に貢献していきます。

西日本電信電話株式会社
代表取締役社長

村尾 和俊



NTT西日本グループでは、年間約20億kWhもの、電力を大量に消費する企業の責務として、環境問題の解決に積極的に取り組んでいます。よりいっそう電力使用量削減等の環境問題に全力で取り組むことを宣言した、「グリーンNTT西日本戦略」を2012年6月に策定しています。2013年は、この戦略を実施していく年であり、グリーンNTT西日本戦略の三本柱である「環境グランドデザインの達成」、「環境・エネルギー事業の展開」、「生物多様性保全活動の推進」を以下のように取り組んできました。

「環境グランドデザインの達成」では、2020年度までに自社利用の電力使用量を2010年度に比べ40%以上削減することを目標にしています。2013年度は、電力見える化システムの拡大導入を進め、電力マネジメントを強化することで、一般的な家庭で使われる電力消費量の約2万世帯にあたる約6千万kWhの電力を削減しました。

電力見える化された115のオフィスビルでは、2010年度比で2013年度は約20%の削減、2014年度の上期には約30%の削減を達成しました。また通信設備では、学習機能を備えた空調自動制御システム「Smart DASH®」の導入等、新しい技術の導入も進めています。

紙使用量の低減では、ペーパーレスの社内システムや、ペーパーレス会議を促進し、帳票類や会議資料等の紙資源消費を低減しています。廃棄物においては、2013年度も、最終処分率1%未満のゼロエミッション*を2年連続達成しました。

「環境・エネルギー事業の展開」では、ICT(情報通信技術)を利活用した社会貢献も進めています。NTTスマイルエナジーでは太陽光パネルを使用しているユーザー向けに、発電量や消費電力量の見える化サービス

「エコめがね」を提供していますが、2013年6月からは、この「エコめがね」により計測された太陽光発電システムのデータをお客様から同意を得た上で、個人情報を含まない形で産業技術総合研究所へ提供しており、発電データの収集と統計データの整備を進めていくことで日本の再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

さらに2014年4月からは、未稼働となっている太陽光発電案件等の情報を収集し、NTTスマイルエナジー自らが発電主体として太陽光発電システムの稼働率の向上を進めており、持続可能な地域分散型のエネルギー社会の創造に貢献していきます。

「生物多様性保全活動の推進」では、18府県2,000名規模でスタートした「NTT西日本みどりいっぱいプロジェクト」も、2013年度には全30府県で7,231名の活動になりました。2014年度は9,000名規模に拡大しています。社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護に取り組み、地域や自然環境保護へ貢献しています。

さらに、京都三大祭りの一つでもある葵祭に使われるフタバアオイを通じた文化・環境保全の啓発を進める葵プロジェクトの「葵里親サミット」を、3都市を結んでの遠隔開催や、絶滅危惧種であるニッポンバラタナゴの里親校を結んだ遠隔授業に私たちのICTを活用し協力しました。

このような取り組みを通して、これからも、NTT西日本グループの社員一人ひとりが、よりいっそう環境保全活動に積極的に活動し、持続可能な社会の構築のためにNTT西日本グループが貢献することをお約束します。

*国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。
NTTグループでは、最終処分率1.0%以下をゼロエミッションと定義。